

学科:再発見！ 何でも見てやろう

2月 日本銀行大阪支店：大阪地方裁判所 見学

CA田口 定 山上 田起子 今西 義章 石黒 洋子

● 日本銀行大阪支店



日本銀行(以下は日銀)大阪支店の見学ツアーに参加しました。

予約は一団体15名限定で、事前の氏名登録制です。そのために、各コース共に、メンバーを午前・午後の2班ずつで編成して行いました。見学時間は約70分です。

日銀大阪支店は、明治15年(1882)12月に開設されましたが、大阪・中之島界隈の名建築の一つとなる日銀大阪支店旧館は、東京駅等を設計された高名な建築家、辰野金吾氏の設計により、2度目の移転

のうちに、明治36年(1903)に完成の運びとなりました。今や、御堂筋に面して往時の姿を留める外壁、屋根などは、中の島のシンボルと言えます。

さて、受付後は、早速、見学場所の一つ、新館の営業室では、現代の時代背景に合わせ、広いスペースですが防犯上で、柱が全くない見通しの良い執務室の設計ぶりに「動きやすく、働きやすい風通しの良い職場環境」が感じ取れました。

次に会議室で約15分 DVD鑑賞で、日銀の機能、役割の奥深さを学びました。

そして、いよいよ名建築:日銀旧館に足を踏み入れます。

現在の旧館は、昭和55年(1980)から約2年間かけて、新館の建築工事にあわせ、老朽化対応として改築工事を行いました。旧館における見学のポイントとしては、3か所あります。

① 記念室

歴代支店長が応接室として使用されていたスペースですが、ドームの天井、内装の飾り棚、チェアー、また12枚のスタンドグラスなどには、数々の装飾が有り、重厚感に圧倒される空間でした。参加者からは「目の保養になる芸術品ですね！」





② クラシックな階段室

樺(ケヤキ)を材料にして、手摺り(てすり)、支える柱の彫刻にもバラの花をはじめ、植物の彫刻を施しながら、柔らかい曲線美を描いています。「細部の設計が素晴らしい！」

③ 見て、触って学べる広報ルーム

開業当時の新聞記事、文献での日銀大阪支店の沿革、また阪神・淡路大震災での日銀関係者の奮闘ぶりにも触れ、感銘を受けました。更には、1万円券:束封(一億円)を持ち上げたり、新札の偽造防止を実感

できるコーナーも有り、歴史を感じとりながら学が楽しい時間を過ごした時間です。

日常生活としては、日銀発行の「お札」にばかり、目を奪われがちですが、日銀の中央銀行としての様々な機能、役割を知る貴重な機会、一日となりました。



皆様 1億円を楽しみました。!?

● 大阪地方裁判所

受付では、まず手荷物検査を済ませます。場所柄、防犯上は重要です。

その後、右手にある本日の裁判予定台帳を確認して、それぞれに興味のある裁判の法廷に出向き、自由に傍聴します。裁判の審理状況、内容により、時間は30分～2時間30分余りと幅が広いです。



「さあ、入廷」日頃は、テレビ・映画の映像で見るだけの法廷ですので、さすがに緊張します。また、当然ですが、開廷中は私語厳禁、多分ご家族はじめ関係者も傍聴されていますので、法廷内の雰囲気は、一層緊張感と静けさに包まれています。傍聴を終えた参加者からは





「初めて生の裁判を傍聴して、何か荘厳な空包ま
れました」「やっぱり、事件の詳細などを被告、検事、弁護士などから直接、聞くと気分が重く、憂鬱にな
るね！」などの感想が有りました。

元々は、2月は、日銀大阪支店のみの探訪でしたが、中之島界限で裁判所が自由傍聴できることを知り、
追加プランとしました。皆さんの満足気な表情、声に、CA一同、ホッと休心しました。

